

平成28年12月期

第2四半期決算説明会



平成28年8月29日
大倉工業株式会社

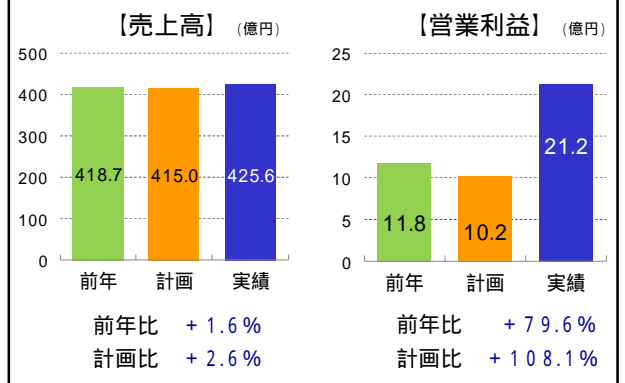
目次

1. 第2四半期決算の概要

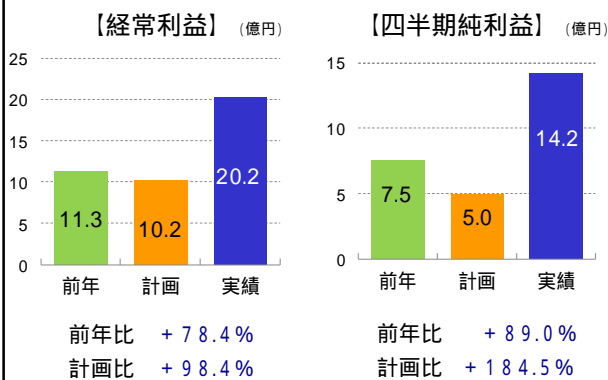
2. 通期の業績予想

1. 第2四半期決算の概要

第2四半期連結累計期間



第2四半期連結累計期間



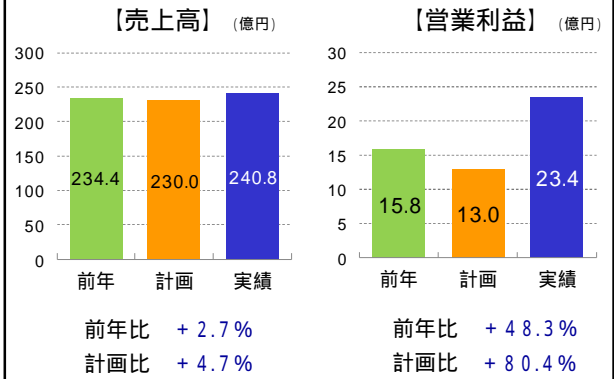
第2四半期連結累計期間

	H27上期	H28計画	H28上期	前年比	計画比
売上高	418.7	415.0	425.6	+1.6%	+2.6%
営業利益	11.8	10.2	21.2	+79.6%	+108.1%
経常利益	11.3	10.2	20.2	+78.4%	+98.4%
四半期純利益	7.5	5.0	14.2	+89.0%	+184.5%

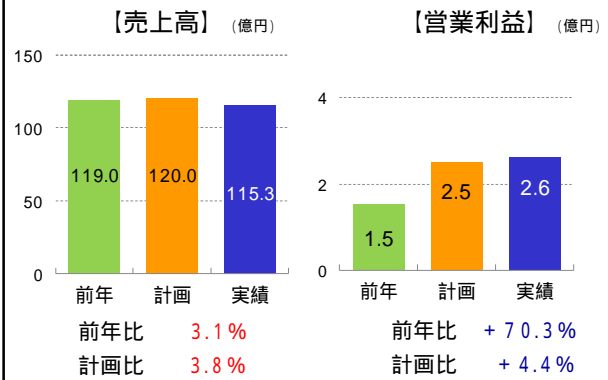
売上高、営業・経常・当期利益で
前年・計画ともに上回る。

セグメント別の概要

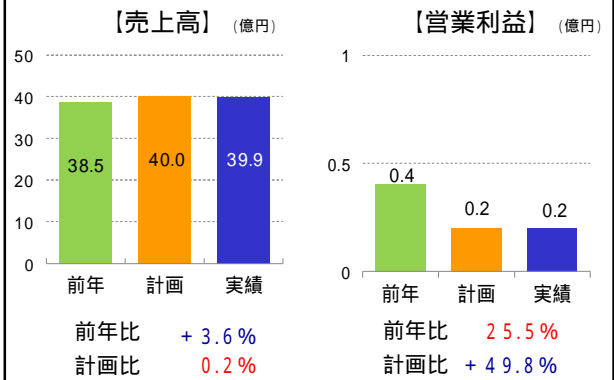
合成樹脂事業セグメント 第2四半期連結累計期間



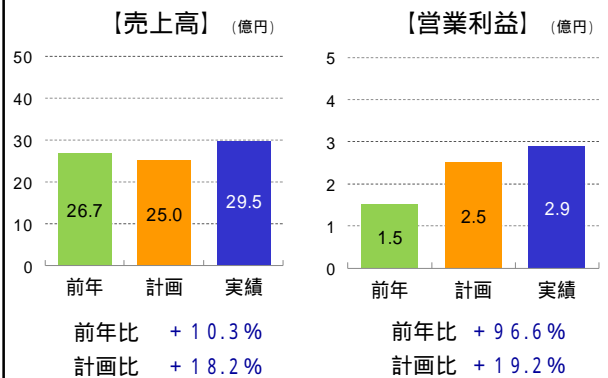
新規材料事業セグメント 第2四半期連結累計期間



建材事業セグメント 第2四半期連結累計期間



その他セグメント 第2四半期連結累計期間



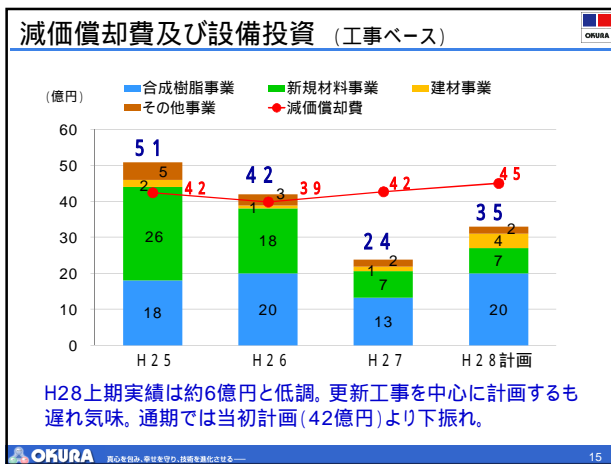
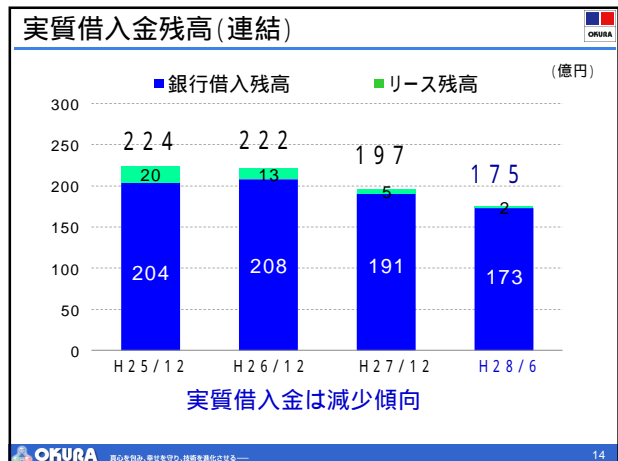
キャッシュ・フロー

連結キャッシュ・フロー計算書

(億円)

	H27上期	H28上期
現金及び現金同等物期首残高	67.3	73.8
営業活動によるキャッシュ・フロー	23.3	32.5
投資活動によるキャッシュ・フロー	15.3	9.1
財務活動によるキャッシュ・フロー	3.7	25.8
現金及び現金同等物期末残高	71.6	70.6

拡販と原料値下がり等により、営業CFは増加
設備投資の進捗遅れにより、投資CFは減少



2. 通期の業績予想

通期業績予想

マクロ見通し
新興国・欧州経済と急激な円高・株安の影響により、景気は先行き不透明な状況

売上高
新規材料でスマホ市場の成長鈍化により数量が伸び悩むため、全体で10億円の不振

営業利益
合成の売価下落や原料価格上昇等の懸念もあり、通期の増益率は上期より低下

特別損益
土地の売却益があるものの構造改革に伴う除却損等を検討中

通期業績予想

(億円)

	前期実績	H28計画 (2月公表)	H28予想 (7月修正)
売上高	859	855	845
営業利益	23.5	24.0	31.5
経常利益	23.2	24.0	30.0
当期純利益	11.9	12.5	20.0

通期業績予想 売上高 OKURA

(億円)

	前期実績	H28計画 (2月公表)	H28予想 (7月修正)
合成樹脂事業	482	475	480
新規材料事業	245	245	230
建材事業	79	80	80
その他	53	55	55
合計	859	855	845

OKURA 真心をこめ、専心を守り、信頼を築いていきます。 19

通期業績予想 営業利益 OKURA

(億円)

	前期実績	H28計画 (2月公表)	H28予想 (7月修正)
合成樹脂事業	33.8	28.0	38.0
新規材料事業	0.9	6.0	5.0
建材事業	0.2	0.5	0.5
その他	4.0	5.0	5.5
調整額	15.6	15.5	17.5
合計	23.5	24.0	31.5

OKURA 真心をこめ、専心を守り、信頼を築いていきます。 20

セグメント別の課題認識

OKURA 真心をこめ、専心を守り、信頼を築いていきます。 21

合成樹脂事業 OKURA

選択と集中による事業領域の拡大

重点課題

BU再編(6グループ制 4BU制)
シュリンクフィルムの最新設備導入(16億円)
関東地区での製造・営業強化

上期: BU再編による拡販で数量増(+4.7%)
下期: 拡販と売価維持に注力

OKURA 真心をこめ、専心を守り、信頼を築いていきます。 22

新規材料事業 OKURA

**利益が出る事業に立て直し
成長分野での要求に対応**

重点課題

G棟の安定稼働と生産性向上
新樹脂原料での光学フィルム

上期: G棟は計画遅れながらも生産性は向上
下期: 安定生産を最優先

OKURA 真心をこめ、専心を守り、信頼を築いていきます。 23

建材事業 OKURA

高付加価値製品の拡充

重点課題

PBの生産・販売の最適化
フロアPB拡販、構造用ボード事業の本格化
ラミネート技術の進化と製品開発

上期: フロアPBは順調、構造用ボードで計画遅れ
下期: 稼働率向上による生産量の確保

OKURA 真心をこめ、専心を守り、信頼を築いていきます。 24

本資料に掲載されている業績予想・事業計画は、当社が現時点で入手可能な情報及び種々の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等の結果は、今後生ずる様々な要因によって、予想・計画とは異なる場合がございます。

平成28年8月29日

平成28年度第2四半期決算説明会資料

大倉工業株式会社

1. 売上高の推移

イ. 各部門別の業績推移

(単位：百万円、%)

部 門		平成26年度第2四半期		平成27年度第2四半期		平成28年度第2四半期	
		金 額	増 減 率	金 額	増 減 率	金 額	増 減 率
売 上 高	合 成 樹 脂 事 業	25,206	0.5	23,443	7.0	24,085	2.7
	新 規 材 料 事 業	12,809	8.6	11,904	7.1	11,539	3.1
	建 材 事 業	3,854	35.6	3,851	0.1	3,990	3.6
	そ の 他	2,835	5.3	2,679	5.5	2,954	10.3
	計	44,705	5.4	41,878	6.3	42,568	1.6
営 業 利 益	合 成 樹 脂 事 業	1,236	18.6	1,581	27.9	2,345	48.3
	新 規 材 料 事 業	760	77.9	153	79.8	261	70.3
	建 材 事 業	37		40		29	25.5
	そ の 他	184	0.5	151	17.9	298	96.6
	調 整 額(注)	805		745		811	
	計	1,338	39.6	1,181	11.7	2,122	79.6
経 常 利 益		1,188	15.7	1,134	4.6	2,023	78.4
親会社株主に帰属する四半期純利益		665	7.7	752	13.2	1,422	89.0

(注) 調整額は、主に報告セグメントに帰属しない全社費用であります。

ロ. 販売数量の推移

(増減：%)

部 門 名		単 位	平成26年度第2四半期		平成27年度第2四半期		平成28年度第2四半期	
			数 量	増 減 率	数 量	増 減 率	数 量	増 減 率
合 成 樹 脂		トン	55,807	5.6	50,996	8.6	53,380	4.7
建 材	加 工 合 板	千枚	765	7.6	646	15.5	617	4.6
	パ-ティクルボ-ド	トン	42,965	92.1	43,727	1.8	45,674	4.5
住 宅	土 地	区画	11	8.3	5	54.5	7	40.0
	建 物	戸	14	30.0	14	0.0	15	7.1

(注) 上記数量には仕入商品の販売数量を含めております。

パーティクルボードには、加工ボードおよびフロア台板を含めております。

2. 設備の状況

イ. 設備投資の推移（工事ベース実績及び計画）

（単位：百万円）

部 門	平成 26 年 度	平成 27 年 度	平成 28 年 度 第 2 四 半 期 実 績	平成 28 年 度 計 画
合 成 樹 脂 事 業	2,182	1,320	326	2,085
新 規 材 料 事 業	1,808	744	73	763
建 材 事 業	81	121	135	464
そ の 他	308	256	120	272
合 計	4,381 (注)1	2,442 (注)2	654 (注)3	3,584

(注) 1. 国庫補助金等(179百万円)を圧縮した投資額であります。また平成27年度に交付された国庫補助金等を加味した実質投資額は4,270百万円であります。

2. 国庫補助金等(5百万円)を圧縮した投資額であります。

3. 国庫補助金等(1百万円)を圧縮した投資額であります。

ロ. 設備投資計画

平成28年度の実施済及び計画の主なものは次の通りです。

（単位：百万円）

事 業 所 名	設 備 内 容	金 額	
合樹	仲 南 工 場	合成樹脂フィルム印刷装置等	500
	関 西 オ ー ク ラ	工場事務所建設	100
建 材 事 業	パーティクルボード製造装置改造・更新等	309	

3. 減価償却費の実績及び予定

（単位：百万円）

部 門	平成 26 年 度	平成 27 年 度	平成 28 年 度 第 2 四 半 期 実 績	平成 28 年 度 予 定
合 成 樹 脂 事 業	1,889	1,885	956	2,134
新 規 材 料 事 業	1,061	1,417	635	1,397
建 材 事 業	557	507	255	589
そ の 他	473	460	231	381
合 計	3,981	4,271	2,077	4,504

4. 金融収支推移表

(単位：百万円)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度 第2四半期実績	平成28年度予定
金額	198	120	31	69

5. 平成28年度の業績予想について

(単位：百万円、%)

項目		通期予想	前期比 増減額	前期比 増減率
売上高	合成樹脂事業	48,000	213	0.4
	新規材料事業	23,000	1,544	6.3
	建材事業	8,000	74	0.9
	その他	5,500	186	3.5
	計	84,500	1,496	1.7
営業利益	合成樹脂事業	3,800	413	12.2
	新規材料事業	500	402	415.0
	建材事業	50	22	80.3
	その他	550	142	35.1
	調整額(注)	1,750	185	
	計	3,150	795	33.8
経常利益		3,000	673	28.9
親会社株主に帰属する当期純利益		2,000	808	67.8

(注) 調整額は、主に報告セグメントに帰属しない全社費用であります。